

「太田市休泊地域総合センター(仮称)設計競技最優秀案」  
今村雅樹アーキテクト

SYUNKEN

# 駿建

1997.1 Vol.24 No.4 学期末号  
日本大学理工学部 建築学科  
短期大学部 建設学科建築コース

昨年行われた設計競技において、今村雅樹非常勤講師，山本理顕非常勤講師の両氏の案が，相次いで最優秀案に選ばれた。今村氏の作品は1998年4月に，山本氏の作品は1999年度に完成の予定である。



「広島市西消防署設計提案競技最優秀案」  
山本理顕設計工場  
(撮影：大野 繁)

# 卒業研究着手について

3年生までは、建築の基礎を幅広く、しっかりと勉強し、あまり早急に専門分化しない方がよいとわれわれは考えています。しかし、大学生活の最後を迎える4年生は、各研究室に所属して、何か一つのテーマに取り組んでみるとともに、先生方と膝を交えて話し合い、就職や大学院への進学相談、大学院生との交流などを通して、教室では望めない人間的なふれあいと相互のコミュニケーションを得ることによって、大学生活の最も有意義な思い出が作り出されるものと考えています。

3年生諸君は4月からの卒業研究着手に向けて、以下のような各研究室の卒業研究テーマや、1996年4月の『駿建』にのっている昨年度の卒業生の就職動向などに目を通して、自分が4年生になって、やってみたいことを、よく考えておくことを希望します。

木村 翔（建築学科教室主任）

## 平成9年度卒業研究テーマ一覧

以下の研究テーマは、建築学、企画経営両コースの学生が自由に選択することができる。（計：計画系，構：構造系，50音順）

**構** 安達俊夫助教授・山田雅一助手（433-A号室）

### 卒業研究テーマ

本研究室は、建築に関連する地盤工学および基礎構造を主な研究対象としている。平成9年度の卒業研究は、次の5つのテーマを計画している。



#### 1. 地盤系オンライン地震応答実験に関する研究

地盤の地震時挙動を再現するため、コンピュータによる数値計算と中空ねじりせん断試験装置による動的実験をオンラインで結合して応答解析を進める地盤応答実験システムの開発研究を行う。

#### 2. 砂地盤の液状化特性に関する研究

液状化特性に与える地震動の2方向入力の影響と液状化発生時の地震動の強さについて、オンライン地震応答実験法により検討する。

#### 3. 地盤改良の耐震性に関する研究

セメント系改良土の基本的な力学特性および耐震性能について、オンライン地震応答実験により検討する。

#### 4. 地盤の非線形挙動に関する研究

地震時の地盤の非線形挙動を把握するために、土の非線形モデルとパラメータ同定法について検討し、非線形挙動の数値シミュレーションを行う。

#### 5. 船橋キャンパスの地中地震観測に関する研究

船橋キャンパスの地盤の振動特性を把握するため、キャンパス内の地中地震観測地点で得られた観測地震波について解析的に検討する。

上記テーマの他に、地盤工学と基礎構造の基礎的な知

識を理解するために、建築学会の「建築基礎構造設計指針」等をテキストにして、輪講形式のゼミを予定している。

### 卒業生の就職傾向

卒研生の就職先は、他の研究室と同様に建設業と住宅産業が大半である。ここ数年の大学院生は東京電力の建設部、大手建設会社の技術研究所や構造設計部、東京都庁の建設局等に就職している。

なお、当研究室を窓口として、海洋建築工学科の西村敏雄教授、神園勝彦講師（駿331号室，船236-B号室）によるゼミを受けることができる。テーマは次のとおり。

### 研究内容

シェル構造を中心とした大スパン構造物に関する研究が主体であり、現在は媒体（水・空気・地盤）との相互作用問題、動的安定問題、振動問題、材料非線形問題等に理論・解析・実験の各面より取り組んでいます。

### 卒業研究テーマ

1. 離散化手法による構造物の振動解析
2. 構造物と媒体との相互作用問題に関する研究
3. 水中におけるシェル構造物の振動実験

**構** 石丸辰治教授・新谷隆弘助手（454号室）

### 卒業研究テーマ

1. 対(地)震性能設計法に関する研究



2. 制震(振)構造の実用化に関する研究

建築物にとって芸術性、機能性は日常生活を保持する上で非常に大切なことであるが、その大前提としてまず第一に大切なことは人命を守るシェルターの役割を果たすことである。先の大震災では、6千人以上の尊い命が一瞬にして失われた。また建築構造物を初めとする社会施設の復旧には、莫大な費用と長い時間がかかることを

改めて認識させられた。これを受けて建築基準法が現在の仕様設計から性能設計（構造物の性能を明示した設計法）に改正されようとしている。この新しい設計法をエネルギー論の立場から整理し開発すること、またそれを実現するための新しい構造部材を開発すること、これが本研究室のメイン・テーマである。

また地震災害発生時には、社会全体の活動が停止するため、怪我をしても治療が受けられないとか、情報網や交通網の破壊により被災地からの脱出や救援活動もできなくなるという状態になることは記憶に新しい。

1次災害はもちろん、このような2次災害を軽減するという意味でも、従来の構造物とは設計思想を異にする免震・制震構造の開発や普及は急務である。本研究室では、その設計法やデバイスの開発もテーマの1つとしている。

#### 卒業生の就職傾向

構造設計事務所、ゼネコンの現場・構造設計部・技術研究所等への就職が多い。また、官公庁・建設コンサルタント会社、あるいは、鉄道・電力会社の建築部門に就職する者も増えつつある。

【構】

岡村武士助教授(946号室)

大型構造物試験棟に建築学科教室より出向して運営と指導にあたっているため、船橋キャンパスにも研究スペースがある。豊富な設備と比較的ゆったりとしたスペースで、自由に研究できるのが本研究室の特徴。いずれのテーマもデジタル・データ化し、CD-ROMを作成する。積極的に取り組む学生を期待している。



#### 1. 建築構造工学に関する研究

構造Form A. ガウディ & Pyramid

#### 2. 実験設計の評価に関する研究

大型構造物試験棟における実験研究の事例を通して

このほか、具体的な研究テーマを持っている学生の相談に応じる。

【計】

片桐正夫教授・大川三雄助手  
・重枝 豊助手(587-A・B号室)

大原則は、各自がすでに興味ある研究テーマを提起することを歓迎する



が、参考までに、これまでの研究事例と、当研究室が今取り組んでいる課題をあげておく。この中より選択、研究に参加することも認めている。

#### 1. 「日本建築の伝統を探究する」研究（例えば、空間構成、意匠、機能などについて）

#### 2. 近世社寺建築の計画、意匠、技術の調査研究（日本の建築の近代化へのメカニズムを解明）

#### 3. 歴史的建造物、町並み、環境の保存と再生に関する実践的研究（特に、活用の具体的提案について）

#### 4. 近代の市街地住宅および宅地開発の発展経過と形態に関する調査研究

#### 5. 東南アジア（特にアンコール遺蹟）のフィールド・ワークと調査研究

#### 6. 中国、朝鮮の建築に関する研究

自主的に研究をすすめる意志と行動力のある人物が望ましい。研究の性質上、資料収集や読書に対し、アレルギーのある者は不資格であろう。

なお、卒業研究着手の条件としては、海外研修旅行（韓国、または東南アジア）に参加できることと、近代・日本・西洋建築史のうち、いずれか2科目の単位を取得していなければならない。

【計】

木村 翔教授・井上勝夫助教授  
・橋本 修助手(583-A号室)

建築の目的は快適な居住空間の創造にある。建築の空間性能に関する多くの要因の中で、当研究室では、音・振動環境の設計に関するテーマを扱っている。



また、当研究室では、建築学科のコンピュータやパソコンを駆使して、学生が独自のソフトを開発し、多くの成果をあげている。

さらに、これらのソフトの積み重ねにより組みあげられるシステムは、音環境の分野において、コンピュータ・グラフィックスを利用した各種のシミュレーションを可能にしており、特にホールの室内音響設計用システムは、すでにCADとして実用化されている。

このような伝統の中で卒研を行う諸君は、自然にコンピュータと親しむことができ、環境工学のみならず、建築のあらゆる分野に対応できる力を身につけて卒業していくことができるであろう。

#### 卒研テーマ

#### 1. 集合住宅の音環境性能に関する研究

本テーマは、(1)床衝撃音の予測と評価、(2)木質系、鉄骨系プレハブ住宅の遮音性能の改善、(3)外周壁、隣戸間界壁の遮音、(4)軌道上や道路上に計画される建物内の騒音、振動の制御などを取り扱うもので、集合住宅の設計、施工に直接関係するものである。

#### 2. 集合住宅の居住者意識に関する研究

集合住宅の居住環境は、建物自体の建築性能とともに、

居住者の生活マナーや相隣関係などの要因が複雑に関連している。そこで、居住者の意識調査、分析を通して、居住者が日常生活の場で経験し、認識している問題を明確にし、総合的に把握していくための研究を行う。

### 3. 建築設備系の騒音振動制御方法に関する研究

建築物の高層化に伴い、建築設備の多様化が進むと、居住空間と設備機械室が混在し、音・振動環境の性能低下を引き起こす。本研究テーマは、設備機器・配管より発生する音・振動の制御と予測方法について検討する。

### 4. 居室床の弾性と居住性に関する研究

最近、居住床として多種多様な仕上げが行われてきている。本研究テーマは、居住性からみた床とはどのような弾性を有するものが妥当なのか、また、安全上(転倒時など)好ましいのかを、実測調査および感覚試験を通して結論づけ、設計上の指針を表わそうとするものである。

### 5. 室内音場の評価と予測に関する研究

ホールなどの室内音場の評価を行う場合、音量、音質、空間印象などが重要なパラメータとなり、これらの要因について、音響測定、聴感による音場評価、音場予測それぞれの面から総合的な検討を行うことが大切である。

研究テーマとしては、(1)音の到来方向に着目した三次元的な音場計測・立体音場再生および評価、(2)コンサート時の演奏者の立場を考慮した舞台内音場の評価、(3)体育館、アトリウム空間などでの音声伝達性能評価、(4)音場合成を用いた両耳による音場再生・評価などがあげられる。

### 6. 室内音響設計に関する研究

ホール、会議場や体育館などの大空間の音響設計に関するテーマについて、パーソナルコンピュータやグラフィック・ターミナルを用い、研究室で開発したソフトウェアによるコンピュータ・シミュレーション手法を活用し、室内音場の再現や評価について研究を行っている。

#### 就職の動向

卒業生は、建設会社の設計部、施工部門、設備会社、住宅産業、建材エンジニアリング部門、建築設計事務所、官公庁などで幅広く活躍しており、設計事務所で独立している人も多い。専門の音響関係では、大学院修士を中心に大手の技術研究所、音響コンサルタント事務所などで活躍している。

#### 計

小嶋勝衛教授・根上彰生講師  
・宇崎崎勝也助手(577-A・B号室)

本研究室では、研究テーマとして地区レベルから都市レベルを対象に、以下のような視点を設定している。



1. 歴史 都市計画史, 都市計画法制史, 都市形成史
2. 調査・解析 都市調査法, 土地利用解析, 地域構造解析
3. 計画 都市空間の高度利用(空中権), 伝統的景観の保全, 既成市街地の再整備(商店街の再開発・インナーシティ問題等), 居住環境整備
4. デザイン 都市設計, 都市景観調査・解析・計画
5. その他 住民参加, etc.

これらの中から、現在または近い将来での都市計画上の課題を踏まえ、数回のミーティングにより各自の具体的な研究テーマを設定する。研究は個人またはグループで進める。

なお、次の科目はぜひ取得しておいてほしい。

「都市計画」「建築法規及び行政」「建築設計製図」

その他、テーマによっては「建築史」「統計学」「電子演算」等の科目が、または外国語の語学力が必要な場合もある。

なお、当研究室を窓口として、**浅香勝輔教授**の指導を受けることもできる。主な研究テーマは「不動産事業史」に関するものであるが、各自が興味を持っているテーマによっては相談に応じる。



#### 構

齋藤公男教授・黒木二三夫短大講師  
・岡田 章助手(439-C号室)

研究の視座 空間構造のめざすもの



#### ● 構造という力学

に裏付けられた技術の世界と、造形という人間のゆれ動く感性の世界を結ぶものは何か。

● 構造には本来、安全性と経済性の確保という大役が課せられている。一方、新しい建築空間をきりひらくという創造的役割のあることを、歴史のあゆみは物語っている。空間構造の今日的な役割は何か。

● “力と形”が結晶した秩序ある自然界の形象は空間構造の原形。釣合形態と立体的な構成システムから生まれる合理性は、大スパン架構の有力な手がかりとなる。

#### 基本テーマ

#### 「空間構造に関する研究」

- 空間構造による大スパン建築の構成を試みる。
- 構造特性を理論・解析と実験の両面からとらえ、設計基本データを蓄積する。

- 実際の構造物の性能を確認し、理論と設計・施工との接点をさぐる。
- コンピュータを用いた、形状解析や応力解析の手法を開発する。
- CG, CADによる空間構造の企画設計支援を、構造計画画面から展開する。
- パソコンを用いた空間構造解析用ポストプロセッサ(画面出力プログラム)を開発する。
- 構造教育へのフィードバック手法を開発する。

97のテーマ

- (1)テンション材料(ケーブルと膜)による空間構成
- (2)木質系材料による空間構造システムの開発と応用
- (3)ケーブルを利用したドームやタワーなどの開発
- (4)ガラス・ウォールやガラス・ルーフの開発と応用
- (5)サッカースタジアムの構造デザイン
- (6)空間構造の歴史と現況
- (7)スペースデザイン
- (8)構造教育用教材およびソフトの開発

研究室の横顔

- “よく学び、よく遊ぶ”は研究室のモットー。テニス、スキー等もスポーツカ学で上達したいところ。
- 合宿、OB会、現場見学会等を通じて、タテ・ヨコのつながりを。他を知り、そして自らを磨く。

計 関口克明教授 駿967-B号室, 船622-B号室)

研究内容

日常生活における快適な空間を創造することは、建築計画上の基本的な設計指針のひとつである。空間性能をいわゆる設計者のセンスで十分に生かすためには、環境工学的な要因を総合的に把握して設計の中で具体化することであり、環境情報の定量化と合理的な環境計画への応用は、質の高い建築空間の創造に欠かせないものである。そのためには環境要因の的確な計測と評価、さらに設計・予測手法の確立が望まれます。

当研究室では音・光・熱環境に関するテーマを扱っていますが、吉野研究室(住環境総合評価, 環境工学とバリアフリー計画等)と共同で環境・情報研究室として活動しております。また希望者は、ゼミ活動の一環として照明コンサルタント(照明学会)の資格取得のための勉強会を行っています。

卒業研究テーマ

[音環境]

1. コンピュータシミュレーションによる室内音場の予測と3D音場再生システムによる建築計画への応用
2. 騒音分布の予測と環境アセスメントに関する基礎的検討



3. 超縮尺音響モデルによる室内音響設計手法の検討  
[光・色環境]

1. 建築空間における照明・色彩計画に関する研究
2. 各種生理量の定量化による空間認知に関する研究

[複合環境]

1. 住環境の総合評価システムの開発に関する研究

音環境では最新の実時間量み込み演算器を、光環境では脳波計やアイトラッカーによる生理量の定量化を試み、環境評価に対する新たな切り口を導入している。

上記の各研究テーマは、心理評価によるデータの統計処理から最新のデジタル技術、マルチメディアの総合によるもので、多くの基礎知識が要求されますが、研究を通して十分修得が可能であり、日頃より建築計画・環境工学に対して興味と理解のある人にとってメリットが大きい。

研究室の活動内容の詳細は当研究室のホームページ(<http://www.arch.cst.nihon-u.ac.jp/eea-lab/index.html>)を参照。

計 関沢勝一助教授・柳田 武講師  
・宇杉和夫講師 579号室)

[関沢担当テーマ]

教育施設の研究

- (1)小・中学校における新しい教育空間の研究



将来における教育方法の変化に対応するためには、学校建築はいかにあるべきか、また地域社会の中での学校建築はどうあるべきか、といった観点からその計画条件を研究する。

(2)障害児のための学校建築の研究

養護学校(精神薄弱, 肢体不自由など)の計画条件を実態調査を通して研究する。

研究室で継続的に勉強しているテーマは上記の通りであるが、卒業研究として勉強するテーマはこれにとらわれることはない。

[柳田担当テーマ]

1. CAD(Computer Aided Design)に関する研究

- (1)CAD/CGによる設計(デザイン・シミュレーション, プレゼンテーション)
- (2)ネットワークによるコラボレーション・デザイン

2. 計画手法・設計手法に関する研究

- (1)計画・設計情報のあり方とその活用, 情報の発信
- (2)平面計画, 配置計画における数理的手法とその応用

3. 企画・FM(Facility Management)に関する研究

- (1)企画段階における情報の収集・分析・企画立案の手法
- (2)FMによる施設の有効な管理・運用とそのシステム

いずれも「建築の企画・計画・設計・製図という一連の流れの中で、いかにコンピュータを活用するか」ということが大きな共通のテーマであるが、これらに関連したものであれば独自のテーマでもよい。

〔宇杉担当テーマ〕

ルネッサンスに始まりヨーロッパの近代初期にかけて近代社会の空間構成のアイデアが形成された。その価値の基盤には人間中心と生産性などがあり、方法としては経験性、経済性などがあつた。この中で近代建築と空間計画の枠組みが生まれた。地球環境保全や地域文化の消滅などの課題がある現在は「人間中心主義から環境中心主義への過渡期である」と捉えると、これから検討すべき多くのものが見えてくる。卒業研究では上記の例に限らず、現在に対する視点を学習し、具体的なテーマ・資料をもとに自己の作業を通して1つの結果を出すことを勉強する。テーマ・進路などよく相談し積極的に取り組むこと。

- (1)空間・形態及び景観などに関する理論と方法の研究
- (2)住居・集合住宅・居住地環境などの調査研究・計画
- (3)環境学習及び地域環境学習施設の研究・計画、など。

〔計〕 高宮真介教授・佐藤慎也助手(578-A号室)

私達の研究室では、計画よりも設計を、理論よりも実際の作品を通して建築を学んでほしいと考えています。そして、建築を単なる「もの」としてではなく、それが成立する社会、文化などを包摂する環境の構成要素として捉え、研究を行っていきます。研究テーマは、このような主旨を理解した上で各自が自主的に設定し、指導を受けた上で進めていきます。また、当研究室の性格上、設計に興味を持ち、将来設計を志す熱意のある人を歓迎します。研究室としての共通のテーマは特に設定しませんが、上記の主旨から以下のようなものが例として挙げられます。



設計手法に関する研究

プログラミングから建築創造に至るまでの実証的な例題の研究。

作品分析、作品評論に関する研究

近代建築以降の実際の作品について、その歴史的背景、地域文化的な背景を考察し、作品分析、作品評論を試み、研究する。

建築と風景の構築に関する研究

建築の場所性に焦点を当て、風景の構築の手法を研究し、ランドスケープデザインやアーバンデザインと建築デザインの関係について研究する。

〔計〕 野村 歓教授・石田道孝講師  
・八藤後 猛助手(965号室)

野村研(野村、八藤後)

形態や機能本位に設計されている



最近の建築物を、改めて設計の原点に戻り、「人間」(健康な成人・高齢者・障害者を含めて)にとって真に好ましく、かつ望ましい建築物とする方策を探究する。

- 1.住環境に関する研究
- 2.住生活機器・設備に関する研究
- 3.社会福祉施設・リハビリテーション施設に関する研究
- 4.福祉のまちづくりに関する研究
- 5.安全計画に関する研究
- 6.就労環境に関する研究
- 7.その他、当研究室にふさわしいテーマ

石田研(石田)

研究室では主に高齢者・障害者など、社会的にハンディキャップを持つ人々を対象に多様な研究テーマに取り組んできた。高齢化社会を迎えた現在、今後とも社会的要請の強い実践的テーマとして以下を設ける。

- 1.高齢者・障害者のための住宅改修支援システムの提案
- 2.都心における高齢者居住に関する研究
- 3.総合福祉施設の今後の展開に関する研究
- 4.その他に、高齢者社会を踏まえた地域環境のあり方に関する研究

〔構〕 半貫敏夫教授(432-A号室)・白井伸明助教授  
・森泉和人助手(431-B号室)

本構造力学研究室は二つのゼミより構成されており、具体的な研究



対象は異なりますが、主として「建築構造に関連する工学的に有用な解析モデルの開発とその検証」を目標とした研究を進めています。

新年度の半貫ゼミは標記教員1名と大学院生6名、白井ゼミは標記教員2名と大学院生3名の構成で、各ゼミの教員がそれぞれの研究テーマに関連する卒研究生を分担して指導にあたります。

半貫ゼミ

大別すると二つのテーマ(鉄骨構造と雪氷の力学モデル)で卒業研究を継続する計画です。鉄骨は弾塑性、雪氷は粘弾塑性体として扱いますが、いずれも解析6割、実験4割くらいの時間配分になりそうです。いま高度な力学知識はあまり問いませんが、伝統ある構造研究室で

なにか自分のものにして卒業してやるうという意欲的な姿勢を歓迎します。

- a) 断面の幾何学的な非対称性に注目した鉄骨部材の弾塑性挙動解析
- b) 骨組構造の解析モデルと崩壊過程解析
- c) 積雪の解析モデルと屋根雪荷重の評価に関する研究
- d) 氷の力学モデルと南極域における氷の建築の可能性について

白井ゼミ

次のようなテーマについて、継続して研究に取り組んでいます。

- a) 高強度コンクリートおよび鉄筋を用いた構造物の力学的特性に関する研究
- b) 高軸力や変動軸力を受けるRC柱を含む骨組構造物の静的および動的弾塑性挙動に関する研究
- c) コンクリートおよびRC構造物の強度・靱性・抵抗機構に関する破壊力学的研究
- d) 鉄筋コンクリート構造物の損傷評価法に関する研究
- e) その他(学生諸君の提示する自主テーマ)

いずれも鉄筋コンクリート構造物に関する難解な研究分野ではありますが、力学系の科目に興味のある学生にはやりがいのある卒業論文のテーマになるものと確信しております。また、本ゼミでは論文作成だけでなく、学科LANの構築・整備等にも力を入れており、“人のために汗を流す”ことのできる学生の来室を期待しています(コンピュータに関する予備知識は不問、心身とも健康であること)。

卒業生の就職状況など

前年の就職戦線はきわめて厳しい状況にあったにもかかわらず善戦しており、その実績は大学院生では建設1、住宅1、製造1、設計事務所2、また、学部生は建設14、住宅6、設計事務所1、製造2、進学4となっています。

【構】 平山善吉教授・斉藤俊一助手(431-A号室)

卒業研究テーマ

- 1. 木質構造の構造特性に関する研究
- 2. 南極昭和基地の建物に関する研究
- 3. 石膏コンクリート及びアルミナセメントの低温特性に関する研究

研究室

研究室は4号館の3階にある。研究活動は構造実験と解析を主体に活動を進めている。当研究室では「よく学び、よく遊べ」をモットーとしている。

研究内容

当研究室では木質材料のLVL材(Laminated Veneer



Lumber), 集成材を用いた構造物の研究を構造・材料の両面から行っている。特に現在は、LVL材の有効な接合法(継手・仕口)に関する実験的研究を行っている。

また、日本の南極観測基地の建物に関する研究においては草分け的存在であり、最近では昭和基地居住棟建物に関する実大実験がある。昨年11月に、観測船「しらせ」に居住棟建物が積み込まれ、隊員の基本的生活の場になる。昭和基地建物は築後約30年以上も経過し、老朽化している。そんな中、研究室の課題は絶えない。氷床建物の基礎的研究、不燃化木質系による新構造システムの研究、石膏コンクリートを用いた研究等が主な内容である。

上記他、研究室では電算機を用いた構造設計手法の修得も大きな課題の一つである。その主な目的は、電算機を用いた設計手法が多岐にわたっているため、設計における一連の流れをつかみ、構造的センスを養うことにある。これらの演習は、多数のパソコン用ソフトを用い、最先端の構造設計手法の話題も交えながら進めていく。

研究室の就職状況

研究室の昨年度の就職状況は、1. 鹿島建設(株)、2. 大成建設(株)、3. (株)竹中工務店、4. (株)間組、5. 戸田建設(株)、6. 積水ハウス(株)、7. 大和ハウス工業(株)、8. 旭化成ホームズ(株)等のほか、大手建設会社に就職している。

【構】 三橋博巳助教授 581-B号室)

卒業研究テーマ

### 1. 寒冷地に建つ建築物に関する研究

- (1) 南極基地建物に関する工学的諸問題
- (2) 多雪地域における超高層建築物の人工吹雪実験によるシミュレーションおよび現地調査
- (3) 多雪地域のリゾート開発に関する研究

### 2. 建築物の寿命・耐用年数に関する研究

木造・非木造建築物の寿命実態調査と寿命推計、マンシヨンの寿命、ストック、管理、建て替えの実態調査など

### 3. 都市・建築の防災計画に関する基礎的研究

地震、風、雪などの荷重による自然災害と都市の安全性、防災計画に関する調査研究

### 4. 高強度鉄筋コンクリート構造に関する研究

高強度材料を用いた鉄筋コンクリート有孔梁の耐力と変形に関する研究

### 5. その他

不動産に関するものなど、相談に応じます。

卒業生の就職傾向

平成8年度卒業生は学部生18名で、建設会社8名、住宅関係4名、不動産関係2名、その他コンサルタントなど2名、大学院2名と多方面にわたる。



【構】 本岡順二郎教授・中山 優短大講師 (332号室)

#### 研究内容

当研究室は、鉄筋コンクリート(RC)およびプレストレストコンクリート(PC)を主とした分野を研究対象としている。



#### 卒業研究テーマ

##### 1. 開口PCはりの研究

PCはりに大きな貫通孔を設ける要求は多いが、現状では適切な設計法が確立されていない。そこで、数年来この研究を続けてきた結果、特別の開口補強を施さない単一開口の場合については、実験的および理論的な研究を概ね完了した。本年は残された問題である補強方法、連続開口などについての研究を行うほか、実大試験体について総合的な加力実験を行う。

##### 2. プレキャスト部材の接合に関する研究

建物の工業化の傾向にともなって、最近はプレキャストの利用、特に場所打ちとプレキャストを一体化して用いるハーフプレキャストの利用が急増している。この両者の結合にはコッターと結合筋が用いられるが、結合鉄筋の力学的挙動についてはなお不明の部分があり、また、接合面のコンクリートのせん断伝達機構に不明の点があるので、主に実験的研究を行う。

##### 3. プレキャストPCの柱接合部に関する実験的研究

高強度コンクリートを用いた高層ラーメン構造を対象とした高軸力を受けるプレキャストPCの下層部柱脚について、地震時の挙動に関する接合部の弾塑性性状を実験的に調べ、解析結果を基にしプレキャストPC部材の履歴復元力特性のモデル化を行う。

【計】 本杉省三助教授・佐藤慎也助手 (578-A・B号室)

私たちの研究室では各自の自主的な活動、発想を重視しており、卒業研究のテーマは、その性質上、各自の申し出と



相談の上で決められる。目下のところ、劇場、コンサートホール、多目的ホール、イベントスペース等、演劇、音楽、舞踊、ショーなどパフォーマンス空間についての調査や研究が多くを占めており、このため舞台美術、舞台照明、舞台監督、さらに演出、劇場運営といった幅広い関連分野の人々との交流や活動も多い。継続して研究を行っているテーマは、以下の通りである。

##### 1. 劇場及びコンサートホールに関する研究

- (1) 舞台空間の使い方とその構成
- (2) 客席の構成とデザインの問題
- (3) フレキシブルな上演空間の可能性
- (4) 舞台美術と劇空間

(5) ホワイエ内の観客サービス機能

##### 2. 設計方法に関する研究

##### 3. 公共文化施設に関する研究

管理者や利用者のそれぞれの立場から見た地域文化施設の現状と今後の在り方を調査研究する。

##### 4. 祭りの空間に関する研究

その他、各自が興味を持っている具体的なテーマがあれば相談に応じる。

【計】 吉田あきら教授・蜂巢浩生助手 (453号室)

吉田研究室は、建築設備、温熱環境(温・湿度分布、気流、温冷感など)、環境複合などを主な研究内容としており、また空気清浄の分野については国立公衆衛生院建築衛生学部の諸研究室と協力関係にある。



これまで卒業生の多くが設備会社、設備設計事務所、建設会社や設計事務所の設備部門等に就職しているが、この分野はアメニティ豊かな未来の高性能建築を支える技術の中心であるため、バブル後も求人は他分野ほど減少していない。しかし、不況による他分野からの転向組も多く、応募者は急増しており、競争率の高さは今年も続くと思われる。女子の技術系総合職も制度としては定着しているが、これもバブル時代に多かった人材確保のための大量求人が反省期に入った結果、競争率は急上昇しており、男女を問わずプロへの指向を厳しく問われる傾向が96年度も顕著であった。

卒業研究のテーマは、研究室の継続課題である

1. 身体障害者等の温熱環境に関する研究
2. 実験動物施設の環境制御に関する研究
3. 温熱環境の数量的評価に関する基礎的研究
4. 地球にやさしいエネルギーシステムに関する研究
5. 設備意匠の研究

と、国立公衆衛生院の空気清浄に関する諸研究である。

身体障害者はしばしば体温調節などの温熱環境への適応にも障害を持つが、本研究室は過去21年間の研究実績をもとに、高齢者・病弱者などへも対象を拡大しつつあり、また国際研究協力の推進力としても発展が期待されている。温熱環境の数量的評価基準についても、そのような幅広い個人差に対応しうるものを検討中である。

実験動物施設については、本研究室はその基準の充実や体系化に環境工学の分野から中心的役割を果たすべき立場にある。地球にやさしいエネルギーシステムに関する研究は、建築学会の学際的プロジェクトの一環である。設備意匠に関する研究も一層の発展を必要とする。

研究の継承発展のため、大学院進学希望者を歓迎する。また国際協力体制の強化のため、語学に優れた卒研究生・

院生候補も2～3名は欲しいところ。自主テーマは、当初から本人に十分具体的な計画が認められるものに限る。

【計】 若色峰郎教授・渡辺富雄助手(966号室)

当研究室は、建築の設計と計画の関連の中で建築空間や都市空間をとらえることを研究の主軸にしているので、建築の設計に興味を持ち、熱意のある人物が望ましい。



卒業研究は、その性質上、各自の自主的な研究に対する意欲によって成り立つものであり、研究の視点について十分に相談のうえ決めている。独自のテーマで進める場合は、各自のテーマに対する具体的な研究方法や資料収集の方法を提示してほしい。

当研究室で継続して研究を行っているテーマは、次の通りである。

研究内容

### 1. スポーツ・レクリエーション施設に関する研究

- (1) 広域圏のスポーツ・レクリエーション施設の研究  
資料・文献等に基づく基礎的研究等
- (2) 地域における公共および民間スポーツ施設の研究  
施設類型別にみた、施設の利用・使われ方などの調査研究等

### 2. 社会教育施設の研究

各施設系について、既存資料・文献・実態調査等に基づいた基礎的研究等

なお、当研究室を窓口として、海洋建築工学科の小林美夫教授(駿966号室, 船231-B号室)によるゼミを受けることができる。

研究内容

私たちの専門は設計と計画であり、大小の競技設計に積極的に参加したり、実際の設計活動に携わることによって創作のフィロソフィを求め、建築設計そのものといえる総合の方法について研究している。このような観点から最近では海の建築、シンボルタワー、キャンパス計画、武道館などを研究テーマとしている。

卒業研究テーマ

### 1. 卒業設計・修士設計についての研究

国内外の建築系大学・大学院の卒業設計・修士設計の資料・作品を収集し、設計のテーマ、コンセプト、デザインなどについて分析的な考察を行う。

### 2. 海の建築

海洋建築論：海洋建築デザイン・計画論の他、厳島神社などの歴史的視点からのテーマなど

海洋景観論：日本三景など海景についてのテーマなど

## 短期大学部建築コース所属研究室

以下の研究室では、建築学科教室の承認を得た上で、卒業研究の指導を受けることができる。

【構】 岡田 満講師(駿333号室, 船926-A号室)

研究内容

当研究室は、鉄筋コンクリート(RC)構造およびプレストレストコンクリート(PC)構造の研究を対象としている。



卒業研究テーマ

### 1. PC架構の復元力特性に関する研究

PC造の建物は通常、柱、壁をRC造とし、梁をPC造としている。この梁が構造体全体の履歴性状に及ぼす影響について検討する。

### 2. RC構造物の柱、梁接合部の破壊性状に関する研究

地震力が作用するRC架構の接合部では隣接する柱と梁から大きな剪断力が導入されるため、エネルギー消費能の高い靱性のある復元力特性を得るための十分な補強が必要であり、またこの接合部は柱と同様に軸力を負担する部位であり、柱、梁に比べて補修が困難なため、破壊を避けねばならない。本研究では、柱、梁接合部の破壊性状を実験的に検討する。

【計】 小石川正男助教授・田所辰之助助手

(駿333号室, 船546-B号室)

卒業研究テーマ

### 1. 実施設計と設計競技(コンペ)を通じてのデザイン・創作



### 2. 建築におけるイメージと演出手法について

### 3. ヨーロッパ近代建築史および近・現代建築論

### 4. 歴史的環境を継承する設計・デザイン手法に関する研究

上記テーマは一例であり、各自の設定したテーマによるが、設計・デザインを中心としながら建築論・建築史を学習する。

【構】 下村幸男助教授(駿333号室, 船926-C号室)

卒業研究テーマ

### 地盤と構造物の動的相互作用に関する諸問題



この1年を通して共に学び、語らい、卒業生諸君にとって、学生生活最後の良き思い出となるよう共に努力したい。以下を読み、興味を持った学生を希望する。

人と人の関わり合いにはうまく表現しきれない相性

の問題があるように、建物と地盤との間にも相性の問題がある。ただし、人間関係とは逆に、あまりそり（性質）が合うのは好ましくない。

地震時の建物の挙動は、建物自体の性質のみならず、建つ地盤の性質に大きく依存する。両者の関わり合いを地盤と構造物の動的相互作用と呼んでいるが、正直、ちょっと取っ付きにくい難しい分野（あるいは人間？）のためか、今まで殆ど希望者がいない。しかしながら、近い将来の耐震設計は、この相互作用を無視して成立しないものと思われる。相互作用を考慮すれば、建物の固有周期は延び、減衰は増し、一種の免震構造と似た効果が期待できる。これは、考慮の有無に関わらないことであるが、的確に考慮すれば、より合理的な設計が可能となる。

本年は、煩雑な計算を極力避けた簡単な数学モデルによる相互作用解析コードの確立を目指す。

【構】

内藤正昭講師 船926-B号室)

研究内容

南極昭和基地の観測用建物の基礎部分の建築材料として、アルミナセメントコンクリートが打設されて約30年が経過している。当研究室では、昭和基地から持ち帰った骨材を用い、低温環境下で打設・養生したアルミナセメントコンクリートやアルミナセメントを用いた鉄筋コンクリート梁の力学的特性について、実験的研究を継続して行っている。



卒業研究テーマ

### 1. アルミナセメント鉄筋コンクリート梁の低温環境下での強度に関する研究

昭和基地の建物建設時期の気象条件を大型低温室内に再現した室内で、アルミナセメント・昭和基地産骨材を用い、打設および養生した鉄筋コンクリート梁の強度について実験的研究を行う。

また、アルミナセメントや低温環境下でのコンクリートに関する論文調査を行う。

### 2. 木質構造の構造システムに関する研究

これまでの昭和基地建物に用いられている、木質系プレファブ建築のシステムに関する研究で、平山研究室と共同研究を行っていく。

【構】

横山 清教授 駿333号室)

研究内容

主としてコンクリートの初期性状（材齢3日以内）に関する実験研究を継続して行っている。



卒業研究テーマ

### 1. コンクリートの初期ひびわれに関する実験研究

シリカフェームを用いた超高強度コンクリートの初期

ひびわれに関して、拘束コンクリート板を用いて実験を行い、ひびわれの発生状況を測定する。

### 2. コンクリートの初期収縮に関する研究

高流動コンクリートの自己収縮に関して、セメントの種類、水セメント比、混和材の種類の影響について実験検討する。

【計】

吉野泰子講師 駿967-B号室, 船545-A号室)

卒業研究テーマ

### 1. 集合住宅における複合環境（温熱・空気・音・光環境）の実態と評価法に関する研究



環境共生をベースに環境家計簿等、省エネ意識を反映した総合評価指標を共に考える。

### 2. 複合環境調査の簡易測定法に関する検討

集合住宅やオフィスの複合環境調査で行ってきた現場実験における測定法の問題点を明確にし、生活実感を大切に簡易測定法を検討する。

### 3. 個人の暴露騒音と居住環境性能について

（サウンドエデュケーションに関する研究）

環境教育の一環として、生活音を切り口とした聴取訓練やLeqメーターの有効活用により、サウンドスケープに関する関心を高め、住まい方の観点から快適音環境創出のためのガイドラインを検討する。

### 4. 視覚障害者用バリアフリー歩行空間の環境工学的支援に関する試み

他大学・他機関との共同研究により、誘導ブロック、誘導鈴、音響信号機等の敷設に関し、環境工学的アプローチにより今後の施策を提示していく。

### 5. 集合住宅の複合環境要素としてのアレルギーの実態と評価法に関する研究

居住下における結露やカビ等の発生実態を実害や健康の観点から調査し、模擬居住実験を通し、建材ごとに付着真菌等の増殖過程を評価するための新たな方法を考案する。

### 6. 大規模開発に関する騒音・振動アセスメント

当該環境影響評価のモデル地区における騒音・振動アセスメントのための手続きと手法を学ぶ。

なお、研究活動は関口研究室と共同で行います。

## 第29回建築学生海外研修旅行の案内

Aコース 北欧4か国+ローマ、パリ

平成9年7月25日～8月12日（19日間）

引率：関沢勝一助教授+斉藤俊一助手

Bコース カイロ、イスタンブール、アテネ、パルセロナ+ローマ、パリ

平成9年8月19日～9月9日（22日間）

引率：三橋博巳助教授+重枝豊助手

両コースとも募集人員35名、申し込みは3月中旬の予定

# 第28回 建築学生 海外研修旅行 報告

## Aコース

平成8年8月19日～9月9日

引率 / 白井伸明助教授

大川三雄助手

構成 / 大学院1年3名, 研究生1名, 学部4年生5名, 学部3年生26名

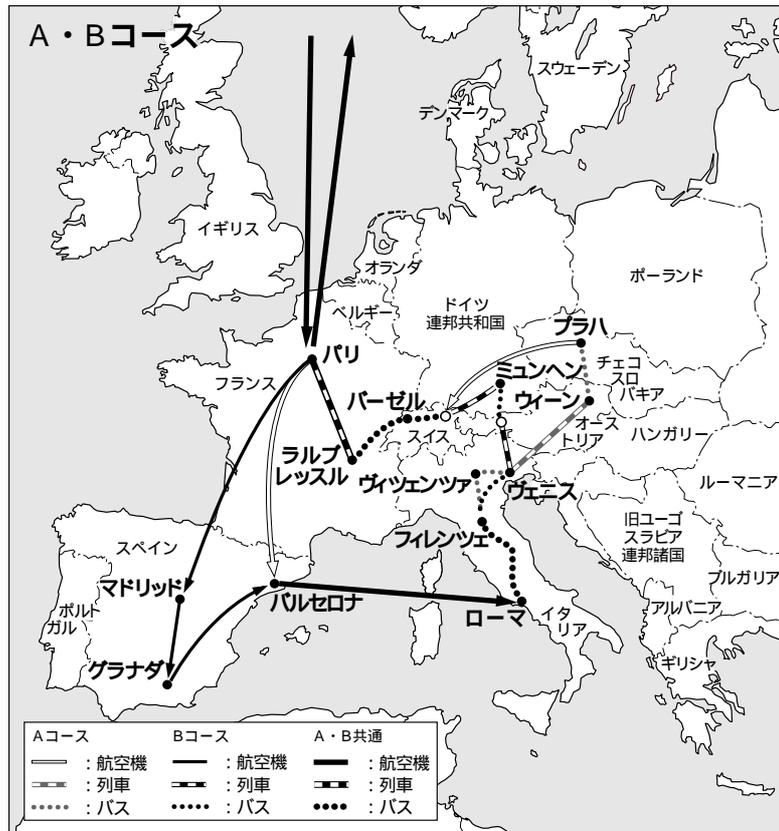
## Bコース

平成8年8月20日～9月10日

引率 / 柳田 武専任講師

根上彰生専任講師

構成 / 学部3年生38名



## Aコース

Aコースの特徴は、3点に集約される。第1は、古代ローマの遺産とその継承である15世紀以降のヨーロッパ建築の流れ（ルネッサンス、マニエリスム、バロック、ロココ、新古典主義）といった、いわゆる古典主義建築の系譜を体系的に辿ること。第2は、バルセロナ、プラハ、ウィーン、そしてパリといった前世紀末に独自の近代文化の華を咲かせた都市を体験すること。そして第3は、近代建築の巨匠たち、ガウディ、ミース、シュタイナー、そしてコルビュジェの多くの作品に触れることにあった。ローマ～フィレンツェの途中に立ち寄ったアッシジでは、昼食に向かう山道で突然にわか雨に会い、全員がずぶぬれになるという全行程中での最大のアクシデントに遭遇。フィレンツェ～ヴェニス間では、マントヴァの街の美しさを再認識し、ヴェローナのカステルベッキオ美術館によって建築家カルロ・スカルバの魅力を満喫できたことなども予想を超えた収穫であった。

最終日のアンケートによると、最も印象深かった都市及び建築作品としては、バルセロナのガウディの作品とパリ及びその近郊にあるコルビュジェの作品がダントツの人気であった。この二つは旅行の最初と最後にあたることから、おそらく22日間という長期間の日程ということもあって、途中の印象がやや薄れた結果ともいえる。都市としてはパリ、バルセロナ、ローマが人気の御三家であるが、帰国後の写真交換会の折には、プラハの思い出が語られることも多かった。東欧圏の都市のもつ不思議な魅力は、ボディブローのように徐々に利いてくるようである。 (大川三雄)

## Bコース

Bコースの目玉は、まず前半、バルセロナでピカソのゲルニカを観ること、グラナダでアルハンブラ宮殿を訪れること、そして、バルセロナでガウディ潰けになること。中盤は、ローマからフィレンツェを経てヴェニスに至る、古代からルネッサンスを通り抜けるイタリア紀行。後半は、Aコースと共通であるが、ロンシャンの教会、ラトゥーレット修道院（宿泊体験も含めて）、サヴォア邸、コルビュジェ・センター等を巡るコルビュジェ・ツアーであった。

あまり欲張らず、主要な都市は3泊にして、できるかぎり自由研修の時間を多くとるよう工夫したにもかかわらず、今振り返ると、本当に慌ただしく、盛り沢山な22日間であった（教会だけでもいくつ訪れたことか）。

「印象が薄れないうちに」ということで、帰りの飛行機の中で全員に書いてもらった感想文をみても、それぞれがこの旅行をおおいに楽しんだようだ。特に、建築そのものは当然のことながら、行く先々で出会った街角の情景（町中を行き交う人々、広場で練り広げられる大道芸や物売り、etc.）、食事のたびに飲むミネラルウォーターやワイン・ビールと美味しい食事、フラメンコショーやサッカーの観戦などなど、生の体験を通して得たものはそれぞれに新鮮な感動を残したようだ。

大きな印象の大部分は各自の中にしまい込まれてしまったのか、肝心なところの写真がひとつもないが、断片的なコメントと写真を通して、この旅行を満喫したみんなの雰囲気を感じ取っていただければでしょうか。 (柳田 武)



アッシジのサンフランチェスコ教会の見える畑で空を見ると、あつい雲から光が漏れているようすが目に入った。それは神様の存在を信じさせられるような神秘的な空で、今回の旅行のテーマにふさわしいような空だった。(3年 垣中太郎)



ラ・トゥーレット修道院。最も印象深かったものの一つです。コルの晩年の作品でロンシャン教会と共に荒いヴォリューム感と精神性が心にしみた。(3年 永田 弘)



ワッサーハウス。古都ウィーンの美しい街並みと、それにさりげなく溶け込むフンベルト・ワッサーの美学との調和を肌で感じ、言葉を失う。(3年 杉本理恵)



今回は、やっぱりプリオン・ベエガが最高でした。1つ1つの見せ方、形態など、肩肌ものでした。(3年 茂呂栄明)



夕日のあたるコロッセオ。目の前で食べた夕食は忘れない。(3年 大貫真樹)

## Aコース



夕焼けと運河のハーモニー。夕方のヴェネツィアとの別れに、少しおセンチになっています。(無記名)



旅の思い出は、ヴェネツィアで水上バスに乗ったこと。運河を一周している間中、この水の都に魅了されていた。(3年 城村裕輝)



マントヴァの街にて。ドゥッカルレ宮でガイドさんと会ってお話を聞いたあとバスに戻ったらバスがいなかった。ハラハラしながらも、初めて乗るオープンカーにドキドキしてありました。(添乗員 渡辺裕美子)



パリのボンビドゥーセンター前のゲーセンにて、しばしゲームを楽しんだ。やはり、ゲーセンの中は万国共通でした。(4年 佐藤雄彦)



旅の思い出は、食の思い出。食べたり飲んだりしたことが一番印象に残っているのでは？  
「それ、うまそう、ちょっといい？」  
「だめ!!」(3年 平湯友信)



ウンコを踏まないように、街灯に登って撮ってもらった。この公園で、この後、僕はウンをつけました。ラッキー(1年 立川博之)



線路沿いを歩くのがしんどいため、貨物列車を見つけてドラマ未成年ごっこ。シグナルBOXは遠目で見させてもらった。(3年 中山満勝)



ショーの製塩工場。とても広々とした所でした。理想都市のよい見本としてよい勉強になりました。(3年 初見泰剛)



ゲーテアヌムには、言葉で言えないすごさがあった。(3年 青木明宏)



「え」にならないくらいチェコキュビズムはスゴイんです。ヤロシュ・ヴィラは大正2年、ヨーゼフ・ホホルの作品です。(研究生 川嶋 勝)



研修旅行の心残り。  
・エッフェル塔に登れなかった  
・プラダの工場に行けなかった  
・音楽都市に入れなかった。(3年 小笠原康博)



ローマ郊外チボリのヴィラ・アドリアーナにて。水辺に残る建築の断片に歴史の重さを感じ、あのル・コルビュジェのスケッチしている姿を想像すると、感動はひとしおであった。(4年 尾又健介)



タイトル「りきむ」 (3年 横山ひろき)



楽しい旅行でした。でも、きちんと勉強もしました。ただ今ジャンヌレ邸にてコルビュジェ研究中です。(院1 平林みか)



FIRENZE DUOMO。一緒に街を回っていたメンバーは、疲れたとか何とか言っていた。結果として僕一人で登った。何故、高いところがあると登ってしまうのか。良い景色を求めて登るのが。感想...「疲れた。」(3年 森谷 寛)



パリ郊外...そこには、澄んだ瞳、無邪気な子供、壊れた自転車、そして美しい集合住宅。低所得者層に対する特な配慮、凛としたプライド。その空気にちょっとだけふれてきた。(3年 中村和基)

## 私の選んだ一枚



ヨーロッパのまちに着いたら、まず高いところに登るべきである。そうすれば、まちの顔がわかるだろう。(3年 植原淳一)



サヴォア邸にて。コルビュジェ設計のリラックスチェアに横になる。なかなか寝心地良し。(3年 松永敏広)



「ドイツ パビリオン」のバルセロナチェア。ずっと座っていた外国人にたどたどしい英語で席を変わってもらい超ごきげんな図。(3年 山中富士子)



フィレンツェに乾杯!! 旅行中22日間1日も欠かさなかったことといえば、ワインを切らさなかったことかな。



ゲーテアヌム。圧倒的な存在感に畏怖し、己の小さきことを痛感す。茫然と立ちつくし、ただ涙するのみ。(4年 大原麻里)



ローマからフィレンツェへ向かう途中の街「アッシジ」のレストランでの光景。不意の大雨に襲われ、テーブルクロスを身に纏って食事を楽しんでいる。(引率 白井伸明)



サンフランチェスコ聖堂の回廊にて。日本人神父の配慮によって、一般の人々は立入禁止の場所に引率していただきました。(3年 福住茂久)



フランスの地下鉄。エルトン・ジョンの曲に合わせて、突然始まった芸に思わずシャッターを切りました。乗客みんなノリノリ。(3年 三須博之)



ライトアップされているカサ・パトリオがすばらしく美しく見えた。ガウディの造形には感服、恐れいった。(4年 後藤栄子)



ボボロ広場の眺望の美しさに思わず息をのむ。2人はシャッターも切らずに、ただあぜんとするだけでした。(4年 佐々木 郁)



ヴェローナの円形劇場でのオペラ(カルメン)。オペラ歌手の歌声が夜空に響きわたり、オペラ初体験の感動を味わった。(3年 古川広毅)



第1日目、マドリッドのレストランにて



スペインのグラナダにて

### 海外研修旅行，第一印象は？

全てはこの日から始まった。一生忘れることのできない旅だった。  
(梅原朝枝)  
今考えると、とても貴重な体験をしたと思う。毎日が新鮮で楽しかった。今度は一人でヨーロッパに行きたい。  
(石永英文)

感動の連続でした。また、エッフェル塔の夜景を見たい!!  
(甲野知子)  
憧れの建築家の作品を観てとても感動した。そして、写真にも写っているが、このキノコがとてもうまかった。  
(小清水祐司)

長いようでとても短い旅行だった。チーズはもういりけど、ドイツのソーセージとビールはまた食べたい。(大杉彩夏)  
初めての海外旅行で、自分を思い知った旅だった。毎日おいしいチーズを食べることができて幸せだった。  
(岡村美佐樹)

ヨーロッパの建築、風土、人、どれも自分が新しい、そして重要な考え方を教えてくれたと思う。しかし、ドイツのバイスビールはうまい!!  
(金井田晃央)

スペインのグラナダでの写真です。天気がよくて日に焼けました。  
(岩崎頼太)  
主に一緒に行動した連中と撮った写真です。景色が良くて感動しました。  
(今野竜也)  
この写真をとる前に、フィルムを1本カメラに入れるときダメにしてみました。  
(池田和隆)  
中庭の池がきれいでした。  
(高橋竜太)  
アルハンブラ宮殿は奥が深く楽しかった。また、アルバイシン地区は自分が外国にいるということを実感させられる場所だった。  
(青野順広)



前半の最大の見所、アルハンブラ宮殿のフェネラリフェ庭園



### 今回訪れた中で最も良かった都市は？

バルセロナ、ガウディの建築物に出会ったこと。パリ、近現代建築に出会えたこと。とにかく、来て良かったと思う。今度は、ゆっくり一人で、外国を旅し、いろんなことに出会い、吸収したいと思う。  
(佐々木雅浩)

今回、訪れた都市で印象深かったのは、最後に訪れたパリ。それまでは、古い教会や、古い町並みを見て回っていたので、あらためて、現代建築の新鮮さを感じることができた。  
(岩松正剛)

### 総合評価？

スペイン、イタリアと様式建築を多数見学し、教会の荘厳さ、宮殿の権力もつ華美さに圧倒された。その後、ドイツ、フランスと近代建築に触れていくと、様式建築とは全く異なるシンプルさ、ガラスなどを駆使してつくる建築形態に、何故かほっとするような親近感のようなものを感じた。  
(中村日出夏)

研修旅行三都市目のバルセロナ。スペインの青空と、旅の慣れから、つい遊んでしまった。  
(吉田 仁)  
スペインの地中海性気候の中、海外旅行の楽しみを満喫していた時の写真です。  
(三矢武史)  
カゼをひく前のまだ元気な僕です。この先の旅のつらさをまだ知らない、にこやかにはいしゃいである僕です。(佐藤崇文)  
バルセロナは暑かったけれど、日本のように蒸し暑くなく、とてもさわやかな暑さであった。海辺の仮設遊園地で遊んだことが非常に楽しかった。  
(三上功生)



バルセロナ、コロムス広場の塔の足元にて

バルセロナで食べたガーリックトーストは最高!!  
(木匠 聡)  
金銭感覚のまじ、食べすぎ、飲みすぎ、そして自分の知らなかった世界を感じることができた。  
(宮澤裕紀)

### 中でも一番人気は、やはり、バルセロナ!!

一番印象に残っているのはバルセロナ。ガウディの建築を見てただただ「すごい」と思ったのと、さらに闘牛を見て興奮し、その興奮が冷めないうちにサッカーを見て、大満足であった。  
(田中華英)  
ガウディーの残した建築が町のいたる所にあり、直接見る

ことができ、感動した。また、サッカーや闘牛も見ることができ、とても楽しむことができた。  
(岩崎頼太)  
スペインは、ガウディの建築物が思っていたよりパワーがあった。夕暮れのバルセロナの町、目の夕日に照らされたカサ・ミラの圧倒的な存在感。  
(由井健太)

おっきなおっきなサグラダ・ファミリア。いつ完成するのかなあ...?  
(中原英子)  
迫力に圧倒されたサグラダ・ファミリア。50年後にまた見に行きます。それまでに、どれくらいできているのでしょうか。  
(須田雅恵)



### 旅の中盤・イタリアでは、すっかり慣れて.....

ローマの朝市にて。果物を買いきり、市場のまん中でむさぼり食べる。それが、その日の朝食に。  
(重川佳子)

ローマのパンテオンの柱で。歩いて歩いて歩いて、つかれきった3人です。& 写真を撮った須田さんも.....  
(高木陽子)





ヴェニス、レガッタレース当日

この旅行全体の感想を拾ってみると.....

はじめは建築物ばかりみていただけ、それよりも、その建築物を生みだした街並みや、人々の暮らし、街の雰囲気を感じることが楽しくて、大切だと思った。ドイツのビアガーデン、フランスのレストラン、いろんな街での大道芸、いろいろな生き方、生活があると感じた。(谷田一彦)

建築を作り出す人々、そのまわりで生活する人々、その人々が作りだす建築もその場へ実際に行き、体験することで、写真では感じることのできないことを数多く学んだ。街をなんとなくブラリと歩きまわり、カフェでひと休みして、行きかう人々を眺めていると、少しでも自分がその街の人になつたような気がした。そして、またいつかここへ来てみたいと思うことが多い旅行だった。(近藤創順)

ツアーで見に行くものよりも、やはり、自分の足で地図を片手に必死になって見てきた建築には、それなりの実感と、感動がありました。その建物に向かう間の街並みや、その土地の人々をじかに感じ、その建物と周辺の地域との調和を味わえたことは、自分にとって良かったと思います。(鈴木菜穂子)

この研修旅行で建物をたくさん見たことはもちろんよかったが、3週間もの長い間、多くの友達と一緒に過ごせたことも本当によかったと思う。(清水理絵)

百聞は一見にしかずを感じる機会の多い旅行でした。「建築は絵のように日本に渡ってくるのがなく、その場所に行かずに見るのが不可能で、またその場所へ行けば必ず待ち受けてくれるものだ」ということをしみじみ感じました。また、添乗員のクロードも楽しい人で、苦労が重なってもそれを見せずに解決してくれたので、頼もしく思いました。(斎藤文子)

バス旅行中の皆さんの快眠ぶりに感心しました。Lost Baggageが3回もあったこと以外、大きな事故もなく、無事に終えられたのでホッとしています。皆いい子達で、弟や妹のように可愛いと思って、一人一人を抱きしめたい気分です。(黒田克也：添乗員)



最後のお別れ会、ワインでちょびっと赤い顔の皆さんです。えつ、私も.....。(高木陽子) いや、もっと赤い顔の人がいるようです。

最後に旅の印象を機内アンケートからまとめると

- <人気のあった都市BEST5>
- 1位バルセロナ：サグラダファミリアの夜景には圧倒、ガウディがすっかり溶け込む街並み、ピカソ・ミロ・ダリなどカタルーニヤの芸術家達、闘牛・サッカーなどナイトライフも充実
  - 2位パリ：あらゆる建築様式がひしめく大都会、ダイナミックな現代建築と壮大な都市計画、他の都市とは比較にならないエネルギーに自由研修で足棒
  - 3位グラナダ：東西文化の融合アルハンブラ、アルバイシンの街並みに悠々の時の流れを実感、シエスタの習慣にもすぐ順応
  - 4位ヴェネチア：レガッタ前日の華やいた雰囲気、海に浮かぶ夜景に夢心地、今度は新婚旅行で.....
  - 5位ミュンヘン：何といってもビヤホール、気さくなジモッティとすく意気投合、大いに盛り上がりました。
- <印象に残った建築BEST20>
- 1位サグラダファミリア 2位ロンシャン教会 3位ラ・トゥーレット修道院 4位サヴォア邸 5位コロニアエル地下聖堂 6位アルハンブラ宮殿、ゲーテアスM 8位パンテオ

- 9位ホテルケンピンスキ、ルーブル宮、ラ・デファンスの建築群、カルティエ財団、サン・ピエトロ大聖堂、グエル公園 15位ラヴィレット公園、カサ・ミラ、アラブ世界文化研究所 18位ロート邸、ボンビトゥーセンター 20位BMW本社ビル、ベルサイユ宮、TGVリヨン駅、バルセロナ博ドイツ館
- <その他>
- トラブルBEST3：3度のロスバゲで延べ7個の荷物が空をさまよう、ローマとヴェネチア2度の大雨、最後の最後帰国便の6時間Delay 印象に残った人：建築家ロート氏、グラナダのBAN氏はじめ個性的な現地ガイドの方々、その他多くの人々との出会いもありました。最大の収穫は、各国の多彩な文化に触れ「また来たい」という人が大勢いたこと。今度は自分の足で、もっと多くの都市と建築をじっくり味わってください。添乗員のムッシュ・クロードもご苦労様でした。(根上彰生)

そして、ヴェネスを一番にあげた人達の感想は？

レガッタ、映画祭前日で街全体に活気があった。サンマルコ広場では、生バンドの音に酔いしれ、帰りの水上バスで「ヴェニスってすばらしい」と、街灯に照らされた街をあとにした。(小山恵子)

街の中に流れるそれぞれの水路が路地のように印象的。水上バスや水上タクシー、船が人々の生活の足となる光景はめずらしかった。(武田美由紀)

水上バスでの移動やレガッタ前日の盛り上がった雰囲気が良かった。(合田奈緒子)

運河の水が泳いではいけなほど汚いと知った時はショックだったが、街の景観と人々の雰囲気が気に入った。特に、夜になったヴェネスは最高だ。サンマルコ広場もいい。(佐藤孝雄)



サンマルコ広場で撮った結婚式の模様です。みんなから祝福されて、とても幸せそうでした。(青木有紀男)



こちらは、「祝福」とは縁のない集団！？

Bコース

私の印象を一言



最後のパリで、エッフェル塔を背に全員そろって記念写真

## 作品づくりと 社会貢献の両立を目指して

坂 茂

この度、以下の宣言文のもとNGOを設立しました。詳しくは、インターネットのホームページをご覧ください。

### 宣言文

これまで建築家として、モニュメンタルな建築を作るだけでなく、いかに社会的な活動をするか考えてきた。

私は、今まで開発してきた「紙の建築」の技術を利用し、阪神大震災の被災地にボランティアの人々と仮設の教会（集会所）と住宅を建設したり、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）とともにルワンダなどの難民用シェルターを開発している。

神戸やルワンダの問題は氷山の一角にすぎず、また「紙の建築」のアイデアもさまざまな方法の一案にしかならない。

そこでインターネットを通じてマイノリティ層の住宅問題の情報を交換し、世界中の同じ問題意識を持った人



ルワンダ難民キャンプにて  
紙のログハウス  
紙の教会（撮影：平井広行）

達とネットワークを作り、そこから活動の輪を広げていければ.....、と考える。（非常勤講師 建築設計製図）  
<http://muse.dnp-sp.co.jp/Japan/DNP/MTN/SB/VAN.html>

### 筆者略歴

坂 茂（ばん しげる）

1957年 東京生まれ

1977～80年 南カリフォルニア建築大学（SCI-ARC）在学（ロサンゼルス）

1980～82年 クーパー・ユニオン建築学部在学（ニューヨーク）

1982～83年 磯崎新アトリエ勤務

1984年 クーパー・ユニオン卒業

1985年 坂茂建築設計設立

1995年～ 国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）コンサルタント

1996年～ 日本大学理工学部非常勤講師



## 建築表現と コモンセンス

白井 勇



「コモンセンス」「常識」は、バランスのとれた健全な一般人（大人）が共通に持っている、または持つべき普通の知識や思慮・分別、あるいは良識として理解されている。しかしながら、価値の混沌とした現代社会においては、多少悲観的な考え方もかもしれないが、バランスのとれた健全な一般人を決定する尺度や普通さの範囲も曖昧で、特定な認識になりにくくなっている。それが、コモンセンスを規定することが極めて難しい時代になってきている要因と言えないだろうか。

建築の現在置かれている状態を考えてみても、他の多くの分野と同様に近代において一定の価値と理解を持ったかに思えたが、現代に至っては、あたかも多様な解を同時に許す不安定な臨界点に達したような状態になってきている。この混沌とした中から新たな次元の秩序・構造を作り上げ、再びシステムの安定性を取り戻す進化ができるのかと模索している状態でもあるようだ。

そこで、建築の表現方法を考えてみると、絵画や彫刻、あるいは音楽等の純粹表現と異なり、生産するというプロセスを採ることによって伝達表現芸術と言えないだろうか。この伝達表現が現在、建築をより危うくしている原因の一つでもあるような気がする。なぜならば、この伝達の中に極めて多くのコモンセンスに期待する部分が含まれているからである。不安定な状態の建築が、さら

に不安定なコモンセンスによって支えられているとしたら、これによって生ずるずれがより危うさを増幅させ、深刻な状態にするのではないだろうか。建築の生産プロセスの中で、多くの時間がこのコモンセンスの確認のために使われていることが証明している。だが、システムの安定化を早急に望むことは不可能であるし、将来的にも難しい。このような時代に考えられるのは、コモンセンスを問い直し、常に計画上の文脈と呼応しながら各プロセスで疑問を感じ、探究して、不安定な中に、その時点での結論を見出さなければならない。それは、安定したコモンセンスに期待しないことが必要であるということでもある。

一方で建築に限らず多くの領域において、エントロピー・ゆらぎ・自己組織化・ホロン・シナジー（協働）・ホメオスタシス（恒常性）・メタボリズム（代謝）・進化・シンピオシス（共生）・エコロジーなど、「生命」に特有のキーワードが用いられている。これは、複数の異質な価値観が共存する現代社会において、「生命体」や「生態系」の優れた生命モデルの特徴を学ぶことによって社会の進化の道が模索されていることであり、新たなパラダイムの中にコモンセンスを発見するヒントになるキーワードなのかもしれない。

（非常勤講師 設計演習 , 建築設計製図 ）

### 筆者略歴

白井 勇（しらい いさむ）

1954年 神奈川県生まれ

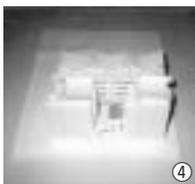
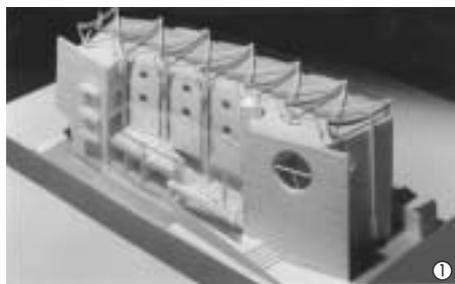
1977年 日本大学理工学部建築学科卒業

（市川研究室）

戸田建設(株)建築設計部を経て

1992年 白井勇建築研究所+（株）ポロデザインシステム設立

1993年 日本大学理工学部非常勤講師



- ①ヤクルト独身寮設計競技応募案
- ②PP-M HOUSE
- ③SANBOKU COMPLEX
- ④PERSIMMON HOUSE
- ⑤大師の家
- ⑥横浜国際客船ターミナル国際建築設計競技応募案

## 建築系三学部・短大教員交流会報告

《ネットワークの現状と展望》

恒例の建築系三学部・短大教員交流会が、平成8年11月29日(金)の正午から幹事校の生産工学部1号館で開催された。テーマは“ネットワークの現状と展望”。程度の差こそあれ、全ての先生が関心を寄せるテーマだったので、充実した議論が行われた。建築教室からは若色峰郎、関口克明、半貫敏夫の三教授と新谷隆弘、森泉和人、渡辺富雄助手、計6名が参加した。

はじめに、千葉経済大学の犬塚正智助教授の講演「情報化社会とインターネット マルチメディア社会へ」を参加者全員がAV室で聞いた。約1時間で文系からみたコンピュータ利用の歴史と展望を要領よく概説していただいた。

続いて大会議室に場所を移して、各キャンパスのネットワークの現状について持ち時間20分で報告があり、討議が行われた。わが建築教室の学科LANの現状は、建築学科システム管理者グループリーダの新谷助手から説明してもらった。その後、関口教授がコンピュータ教育の現状を報告したが、持ち時間オーバーで打ち切り。新谷助手の発表の中で、e-mailを使ってくれない一部の先生の教育が課題と言われたときには思わず「ドキッ！」(これは個人的な感想です)。

一通り各キャンパスの現状報告を聞いたが、いずれも持ち時間内で話さきれない内容が残ったので、そのあと補足説明の時間が設けられた。ここで、関口教授から映像を用いて建築学科コンピュータ教育(電子演算の画像処理導入部)事例の紹介があり、他学部からも注目された。設計教育への本格的な適用はこれからというところが多かったが、いずれも重要課題として取り組む姿勢がみられた。また、カリキュラム改訂時期と重なるところでは、コンピュータ教育科目再編成が積極的に行われていた。

学部全体の問題として、図書館へのコンピュータ導入は生産工学部が先鞭をつけたが、工学部でも図書館の情報管理や閲覧管理および就職情報の閲覧システムを、理工学部と同様に構築している。

以上のように、どこのキャンパスでも情報ネットワークの運用が必要不可欠になっているにもかかわらず、大学のインターネットをはじめとして、建築学科のシステム管理にしても、基本的にボランティア活動に依存している現状をみるにつけ、人的組織充実の必要性を強く印象づけられた。(半貫敏夫記)

## 教室主任のファイルから

建築学科教室では毎年12月に、指定高校からの推薦入学が決まった後輩諸君に、「建築入門」を独自にアプローチしてもらおう目的で、二つの課題を課しています。教室主任宛に届けられた学生諸君の新鮮な研修成果の中から、平成8年度生のレポートを分析・整理して紹介します。

《高校生の建築入門 建築入門書の読後感想レポート》

一般書店で入手可能と思われる図書14冊を参考として推薦し、建築入門書を読んでレポートにまとめるという最初の課題では、ガウディの人気の抜群でした。それと、書名から本を選択する場合、一般にわかりやすいキーワードがあるほうが選びやすい(これは当然)ということも実感しました。レポートのなかで、読み始めたらいきなり専門用語の羅列で「いやになってしまった」というのがあって、それが「日本の近代建築」だったのにはショックを受けました。「いやになる」ともうそれ以上の努力をしないのが最近の傾向なのでしょうか。導入教育の難しさを突きつけられた思いです。教室の推薦図

表1

書名/著者	読者数
不思議な建築・甦ったガウディ/下村純一	14
ヴェネツィア・水上の迷宮都市/陣内孝之	6
建築有情/長谷川 堯	5
日本の近代建築(上)/藤森照信	4
日本の近代建築(下)/藤森照信	4
パリの奇跡/メディアとしての建築/松葉一清	4
建築探偵の冒険(東京編)/藤森照信	4
建築の発想/谷川正巳	4
インテリアの近代/下村純一	4
風景学入門/中村良夫	2
日本人と住まい/上田 篤	1
エッフェル塔ものがたり/倉田保雄	1
建築の絵本・建築構造のしくみ/川口衛他	1
建築とは何か	1
建築のある風景	1
間違いだらけの住まいづくり	1
都市と人間 広場と公園	1
建築美を科学する	1
和風住宅/風土建築研究会	1
見知らぬ町の見知らぬ住まい/布野修司編	1
震災に教えられて/梅村魁	1

書以外で、学生諸君が独自に選んだ本のなかに「震害に教えられて／梅村魁」があって大感激（編集委員会の構造系委員の感想）。建築学のなかでも、構造系のいい入門書がほしいとつくづく感じました。

これらのレポートを書いた学生諸君が、いま大学生活1年を終えるにあたって、このときの「建築への熱いおもい」を振り返り、そのエネルギーを大事に育てていってくださることを願っています。表1に、書名／著者と読者数の一覧を示します。

#### 《高校生の建築入門 高校生の建築見学記》

第二課題の「建築見学記」では、話題の現代建築（これは編集委員の勝手な分類）が最も多く、はるばる遠くに出かけるのではなく、住まい近くでいい建築を選択しています。次に多かったのは近代建築、歴史的建造物類、ユニークなものでは横田基地の環境問題を論じたレポート、建築の色彩論などあって、義理でまとめたレポートは少なく、建築に対する若いエネルギーを感じさせてくれるものが多くて、編集委員兼建築教員は大いに勇気づけられました。表2に、見学先の一覧を示します。（ ）内の数値は人数です。（編集委員会）

#### 話題の現代建築（28）

愛媛県民文化会館（丹下健三）／千代田生命保険相互会社本社ビル（村野藤吾）／ネクサス香椎／愛知芸術文化センター／新潟NEXT21／グリーンドーム前橋／都立大学キャンパス／東京国際展示場／藤沢市湘南台文化センター／国立民族歴史博物館／東京都美術館／サンシャインシティ／世田谷美術館／江戸東京博物館／彩の国さいたま芸術劇場／恵比寿ガーデンプレイス（2）／浦安市総合体育館／ソリッドスクエア（川崎）／東京キリストの教会／東京都庁舎（3）／ランドマークタワー（5）

#### 近代建築（9）

丸ビル／国会議事堂／山形県旧県庁舎／東京駅／旧札幌博物場／横浜市開港記念会館／鞘堂ホール／笠原小学校（埼玉）／津山高等学校校舎（岡山）

#### 歴史的建造物（11）

鎌倉（寺社）（2）／中崎家住宅／高知城／白石城／鶴ガ城／姫路城／本居宣長旧宅「鈴屋」／川越の蔵造り／平泉／民家園（2）

#### 身近なお気に入り建築（9）

教育文化センター（茨城県）／新築成った自宅／高校の屋内プール／近所の材木店／館林市三の丸芸術ホール／笛吹き川フルーツ公園／成田市立図書館／寺（2）

#### その他（2）

横田基地環境問題／建築の色彩

## 第43回 全国工業高等学校設計競技報告

テーマ：「ひとにやさしい住まい」

今年度の課題は「ひとにやさしい住まい」でしたが、全国の工業高校から41校96点の応募がありました。



1等「親子・ふれあい・散歩道」

「ひとにやさしい」

という言葉は高齢者の増加に伴い、現在は耳慣れた言葉として、また使用されていますが、主催者側として高齢社会が住宅に与えるさまざまな影響を現実の問題として捉え、考える機会になればと思い、同時に現代社会にはいろいろな場面で「やさしさ」や「思いやり」が必要であると考え、高校生諸君が「ひとにやさしい」という言葉をどのように理解するかを、「住まい」を通じて表現してもらいたい趣旨で設定しました。

応募作品は高齢者や障害物に対して機能的な生活空間を創出する案や、人と人とのコミュニケーション、人と自然とのコミュニケーションの活性化など、多くの提案が見られました。入賞作品はどれも高校生とは思えない充実した表現力で、毎年プレゼンテーションの工夫が見られますが、近年は入選する高校が毎回同一である傾向があり、常連校の努力と研鑽を評価するとともに、他校のより一層の奮起も期待しております。

理工学部建築学科では、入賞者を対象として特別公募推薦入試制度の受験資格を与え、毎年数名入学生を迎えておりますが、幹事のひとりとして今後とも本設計競技が意義深いものとして発展することを願っています。

（短大助教授 小石川正男）

### 入賞者

1等	大西千春（大分県立鶴崎工業高校）
2等	三浦文子（青森県立弘前工業高校） 向井幸子（三重県立四日市工業高校）
3等	稲葉大輔（群馬県立館林商工高校） 関口あかね（群馬県立館林商工高校） 佐野 裕（静岡県立静岡工業高校）
佳作	田中景子（兵庫県立龍野実業高校） 松本雄介（大分県立大分工業高校） 坂本照先（青森県立弘前工業高校） 山中清雄（群馬県立館林商工高校） 望月 綾（静岡県立静岡工業高校）

書以外で、学生諸君が独自に選んだ本のなかに「震害に教えられて／梅村魁」があって大感激（編集委員会の構造系委員の感想）。建築学のなかでも、構造系のいい入門書がほしいとつくづく感じました。

これらのレポートを書いた学生諸君が、いま大学生活1年を終えるにあたって、このときの「建築への熱いおもい」を振り返り、そのエネルギーを大事に育てていってくださることを願っています。表1に、書名／著者と読者数の一覧を示します。

#### 《高校生の建築入門 高校生の建築見学記》

第二課題の「建築見学記」では、話題の現代建築（これは編集委員の勝手な分類）が最も多く、はるばる遠くに出かけるのではなく、住まい近くでいい建築を選択しています。次に多かったのは近代建築、歴史的建造物類、ユニークなものでは横田基地の環境問題を論じたレポート、建築の色彩論などあって、義理でまとめたレポートは少なく、建築に対する若いエネルギーを感じさせてくれるものが多くて、編集委員兼建築教員は大いに勇気づけられました。表2に、見学先の一覧を示します。（ ）内の数値は人数です。 （編集委員会）

#### 話題の現代建築（28）

愛媛県民文化会館（丹下健三）／千代田生命保険相互会社本社ビル（村野藤吾）／ネクサス香椎／愛知芸術文化センター／新潟NEXT21／グリーンドーム前橋／都立大学キャンパス／東京国際展示場／藤沢市湘南台文化センター／国立民族歴史博物館／東京都美術館／サンシャインシティ／世田谷美術館／江戸東京博物館／彩の国さいたま芸術劇場／恵比寿ガーデンプレイス（2）／浦安市総合体育館／ソリッドスクエア（川崎）／東京キリストの教会／東京都庁舎（3）／ランドマークタワー（5）

#### 近代建築（9）

丸ビル／国会議事堂／山形県旧県庁舎／東京駅／旧札幌博物館／横浜市開港記念会館／鞘堂ホール／笠原小学校（埼玉）／津山高等学校校舎（岡山）

#### 歴史的建造物（11）

鎌倉（寺社）（2）／中崎家住宅／高知城／白石城／鶴ガ城／姫路城／本居宣長旧宅「鈴屋」／川越の蔵造り／平泉／民家園（2）

#### 身近なお気に入り建築（9）

教育文化センター（茨城県）／新築成った自宅／高校の屋内プール／近所の材木店／館林市三の丸芸術ホール／笛吹き川フルーツ公園／成田市立図書館／寺（2）

#### その他（2）

横田基地環境問題／建築の色彩

## 第43回 全国工業高等学校設計競技報告

テーマ：「ひとにやさしい住まい」

今年度の課題は「ひとにやさしい住まい」でしたが、全国の工業高校から41校96点の応募がありました。



1等「親子・ふれあい・散歩道」

「ひとにやさしい」

という言葉は高齢者の増加に伴い、現在は耳慣れた言葉として、また使用されていますが、主催者側として高齢社会が住宅に与えるさまざまな影響を現実の問題として捉え、考える機会になればと思い、同時に現代社会にはいろいろな場面で「やさしさ」や「思いやり」が必要であると考え、高校生諸君が「ひとにやさしい」という言葉をどのように理解するかを、「住まい」を通じて表現してもらいたい趣旨で設定しました。

応募作品は高齢者や障害物に対して機能的な生活空間を創出する案や、人と人とのコミュニケーション、人と自然とのコミュニケーションの活性化など、多くの提案が見られました。入賞作品はどれも高校生とは思えない充実した表現力で、毎年プレゼンテーションの工夫が見られますが、近年は入選する高校が毎回同一である傾向があり、常連校の努力と研鑽を評価するとともに、他校のより一層の奮起も期待しております。

理工学部建築学科では、入賞者を対象として特別公募推薦入試制度の受験資格を与え、毎年数名入学生を迎えておりますが、幹事のひとりとして今後とも本設計競技が意義深いものとして発展することを願っています。

（短大助教授 小石川正男）

#### 入賞者

1等	大西千春（大分県立鶴崎工業高校）
2等	三浦文子（青森県立弘前工業高校） 向井幸子（三重県立四日市工業高校）
3等	稲葉大輔（群馬県立館林商工高校） 関口あかね（群馬県立館林商工高校） 佐野 裕（静岡県立静岡工業高校）
佳作	田中景子（兵庫県立龍野実業高校） 松本雄介（大分県立大分工業高校） 坂本照先（青森県立弘前工業高校） 山中清雄（群馬県立館林商工高校） 望月 綾（静岡県立静岡工業高校）

三橋博巳助教授は、平成8年8月30日～9月8日にヘルシンキ大学で開催されたCIB W70, Helsinki 96国際シンポジウムに出席し、“A research on the Stock and Life time of Office Buildings in the 4 wards of Tokyo”と題して論文を発表した。

半貫敏夫教授は、平成8年11月6日～8日に旭川市で開催された寒地技術シンポジウム96に出席し、“構造物に作用する積雪沈降荷重の有限要素法による見積について”と題する論文を発表した。

平成8年11月21日～22日に山形市で開催された第13回日本雪工学会大会で、半貫敏夫教授は大学院生高橋誠一、勝山範之君と連名の論文、“積雪沈降荷重による建物軒先周りの応力分布解析”を発表した。

宇杉和夫専任講師は、越谷市のまちづくり都市景観講演会（平成8年11月28日、越谷市中央市民会館劇場）において「原風景と都市・建築のデザイン」の基調講演をし、「越谷の原風景とまちづくり」について、本学科卒の越谷市建築景観賞実行委員会副委員長山田慎一氏と対談した。

## 教室ぶろむなード

浅香勝輔教授、宇於崎勝也助手連名の原著論文「都市における火葬場の整備に関する研究 政令指定都市の現状分析を通して」が、日本都市計画学会都市計画論文集No.31（1996.11）に掲載され、平成8年11月30日、12月1日に立命館大学びわこ・くさつキャンパス（草津市）で開催された学術研究論文発表会で発表が行われた。

木村翔教授、井上勝夫助教授、荘美知子非常勤講師は、平成8年12月2日～6日にハワイ・ホノルルで開催された日米音響学会ジョイントミーティングに出席し、木村教授は“Development of Floor Impact Sound Insulation Technology in Japan”，井上助教授は“Proposal for a Standard Heavy Impact Source for the Measurement of Floor Impact Sound Insulation Performance”，荘講師は“Analysis of Occupancy Evaluation as to Multi-Family Housing Sound Environment”と題する論文を、いずれも招待講演

（Invited Paper）で発表した。

柳田武専任講師が編集委員・執筆者の一人として参加した「建築・都市計画のための空間学事典」（井上書院）が平成8年11月に刊行された。同書は、日本建築学会の建築計画委員会・空間研究小委員会の活動の一環として出版されてきた前3冊のシリーズに続く企画で、空間研究に関連するキーワード200語を解説したものである。

小石川正男短大助教授と研究室グループは、住宅金融公庫主催「マルチメディア社会における居住空間 2010年を想定して」デザインコンテストにおいて入賞した。また、日本建築士会連合会主催設計競技「都市の中の新しい集住体」で奨励賞を受賞した。

B. A. LEJANO氏、安達洋教授、白井伸明助教授、中西三和講師、薬研地彰氏、田中賢二氏連名の原著論文“横補強筋により拘束された高強度鉄筋コンクリート造柱の応力 ひずみ曲線に及ぼす寸法効果（第2報 応力 ひずみ曲線のモデル化）”が、日本大学理工学研究所報第81号（平成8年10月）に掲載された。

### 卒業式～新学期開始までのスケジュール

項目	日時	備考
卒業研究発表会	2月21日(金)	計画系、構造系に分かれて午前中に実施
卒業設計発表会	2月21日(金)14時より	5号館5階スライド室
卒業発表	3月6日(木)	クラス担任
修士論文発表・審査会	3月5日(水)～6日(木)	
卒業式	3月25日(火)	
新学期ガイダンス	4月3日(木)9時より	新2年生
	4月4日(金)13時より	新3、4年生
前期授業開始	4月5日(土)より	

（注）この春、3年生は就職か進学か、進路を決断する大事な時期です。他に遅れをとらないように準備を進めてください。

### 建築学科ホームページへの誘い

建築学科のホームページが開設されているのを知っていますか？ ひょっとしたら未公開情報が捜せるかもしれません。まだアクセスしたことのない諸君がいたら、ぜひ一度、手近な端末から試してください。

<http://www.arch.cst.nihon-u.ac.jp>

### 駿建目次

（1997.1 Vol.24 No.4 通巻96号）

卒業研究着手について	2	建築系三学部・短大教員交流会報告	18
第28回建築学生海外研修旅行報告	11	教室主任のファイルから	18
シリーズ 私と作品		第43回全国工業高等学校設計競技報告	19
作品づくりと社会貢献の両立を目指して	16	教室ぶろむなード	20
建築表現とコモンセンス	17		

『駿建』 発行者・木村 翔：千代田区神田駿河台1-8 日本大学理工学部建築学科教室 Tel.03(3259)0724  
平成8年度編集委員：半貫敏夫・井上勝夫・宇杉和夫・蜂巣浩生・田所辰之助

印刷：奥村印刷株式会社